

議事録（概要）

| | | | |
|---------------------------------|---|-----|------------------------|
| 2020年度 第2回 市町村等公文書管理支援事業検討会議 | | 記載日 | 2021年3月18日（木） |
| | | 記載者 | （公財）沖縄県文化振興会 公文書管理課 |
| 日 時 | 2021年3月12日（金） 10:00～11:30 | | |
| 場 所 | 沖縄県公文書館 会議室 他：テレビ会議 | | |
| 議 題 | 2021年度事業活動計画について | | |
| 出席者 | 外部有識者：小谷允志（出版文化社アーカイブ研究所長） 真栄城香代子（前沖縄県公文書館長） 事務局：上與那原美和子（沖縄県公文書館長）、大城博光（同公文書管理課長） 仲本和彦（同資料公開班長）、瑞慶村節子（同評価選別嘱託員） | | |
| 欠席者 | 無し | | |
| 検討内容 | <p>【報 告】</p> <p>□2020年度事業活動内容について瑞慶村から報告があり、大城課長、仲本班長から補足、所感が述べられた。</p> <p>（活動内容）</p> <p>①報告書の発行 ②個別相談（大宜味村、読谷村） ③出前講座（今帰仁村、嘉手納町） ④公文書管理改善啓発ポスターの発行 ⑤HP 開設</p> <p>【意見交換】</p> <p>□小谷氏から各市町村との交流は事業開始により始まったのか、また、個別の問題点の相談だけでなく全体的な文書管理規程等の見直し、条例化の話がでていところはあるかの質問があり、大城課長から読谷村に関して、現状の問題に加えてルールづくりについても相談があった旨説明があった。</p> <p>□小谷氏からいろいろな問題に対処療法的にやるのではなく全体的な規程の見直しという方向にもっていったほうがよいという意見があった。</p> <p>□真栄城氏から今後、将来に向けて市町村の支援に関して文化振興会における組織の体制整備について検討の必要性が述べられ、大城課長から体制、財源も含めて考えていきたい旨の発言があった。</p> <p>【審議事項】</p> <p>2021年度事業活動計画について</p> <p>□2021年度事業活動計画について大城課長から次のとおり説明があった。</p> <p>報告書を各市町村の方が読んでもらった後に、相談したいときの受け皿として継</p> | | |

続の必要性がある。本事業の費用の残があることから個別相談と出前講座を来年度も継続したい。また、沖縄県に対しても同様なことができればと考えている。

【意見交換】

- 小谷氏から市町村と県への対応は区別して行った方がよいとの意見があった。
- 上與那原館長から市町村と県に対して棲み分けをしないと文化振興会側が混乱する。別枠で考えた方がよいとの意見があった。
- 大城課長から沖縄県の方から沖縄県の文書管理の仕組みについての相談があったこと、また、県と勉強会の予定がある旨、報告があった。
- 小谷氏から検討の方法として条例ありきではなく現場の問題点を捉えて改善策を考えるアプローチでやるのが県の職員にとっても良い効果があるとの意見があった。
- 大城課長からただルールを変えるということだけでなく、既存のシステムや体制への影響の可能性も踏まえて実行可能性のある仕組みの検討を提案したい旨発言があった。
- 真栄城氏から市民、県民の要求がない中、職員の作業量が増えるなか条例化するメリットがあるのかという県職員の声があった。そのことも踏まえると現用文書の起案から引き継ぐまでのトータルで考えてもらった方がよいとの意見があった。
- 大城課長から個人的には現状に問題が無ければ変える必要はないと考えているが、何が問題なのかを考える機会にし、あわせて、また、国が導入しているレコードスケジュールの話ができるかと考えている、との説明があった。
- 小谷氏から公文書管理の重要性を県の職員、少なくとも担当の方にわかってもらう必要がある。市町村でやっている出前講座のようなアーカイブズも含めた文書管理の重要性、グローバルスタンダードの記録管理について話し、県の職員に理解してもらうことが重要だと意見があった。
- 仲本班長から非現用のことも考えて将来へ県の歴史を残すということも含めて、もっと大きな広い視点で考えないと条例化の必要性は理解できない。そのために文書管理の重要性を伝えていく出前講座、条例化に向けた勉強会など、啓発と実際の運用改善の検討の二本立てで進めていく必要性を感じたとの発言があった。
- 最後に大城課長から 2021 年度事業計画として個別相談と出前講座を継続して行うことの確認と小谷氏と真栄城氏に引き続き検討会議のメンバーを依頼し了承を得た。